

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.228

2024. 9. 30

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」 岩手の署名 31,944 筆（～9月末。うち郵送 352 通・1,369 筆）

被爆者とともに核兵器のない平和で公正な世界を - 2024 年原水禁世界大会参加報告 -

広島・長崎には現地とオンライン視聴合わせ、1 万人が参加しました。来年の被爆 80 年に向け、核兵器廃絶を求める運動を大きく広げ、行動しようと思意統一。岩手からは広島に 21 名が参加しました。

◇日本こそが核兵器廃絶、世界平和に向けた活動を前進させなければ

広島市主催平和記念式典では、松井一実市長が「心をつににした行動で、核抑止力に依存する為政者に政策転換を促すことができる」と参加者に呼びかけ、日本政府に核兵器禁止条約の締結国となり核兵器廃絶へ進むよう求めました。平和大会のフォーラムでは、4つのNO（①軍事同盟を結ばない、②ある国に敵対して別の国に味方しない（中立性）、③国内に外国軍事基地を置かない、④武力行使や武力による威嚇を行わない）を各国で掲げることで核兵器廃絶に繋がる紛争の平和的解決ができるとして、意識を変えていこうと発言がありました。実際は、大多数の国で4つのYESとなっていることから、世論に働きかけ国政を変えていこうと呼び掛けられました。他にも、世界各国の参加者から熱い発言があり、核兵器廃絶への大きなうねりが始めていると感じられる世界大会でした。

世界で数少ない核被害の国である日本こそが核兵器廃絶、世界平和に向けた活動を更に前進させていかなければならないと改めて気持ちを引き締められました。将来に新たな被爆被害が起こらないよう、皆さんも核廃絶・世界平和に向けて少しでも関心を持ち、学習し活動していきましょう。（岩手県医療局労働組合・高橋広美）

◇原爆資料館の展示品、死体が赤・青・紫に変色していったことが書かれた絵がとても印象的でした

自分があの日この場所にいたら、痛みや熱さに耐え切れずもがき苦しむだろうと思いました。原爆が投下された日だけではなく、その後何日間にわたって心も体も苦しんでいる方がいることを学び、自分の誕生日の8月10日にも原爆によって多くの人が命を落としていることが分かり悲しくなりました。また、原爆死没者慰霊碑に「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませんから」と彫られていたことを見て、原爆投下からもうすぐ80年経つが、戦争や争いがなくなっていないという現実には悲しくなりました。



広島・長崎における原爆被害者は高齢化しており、いずれ亡くなってしまうが、原爆投下により日常生活が一瞬でなくなってしまったことを風化させてはならないし、しっかりと後生に語り継ぐべきだと思いました。岩手県は東日本大震災による被災のイメージが強いが、自然災害よりも核兵器による被害の方が悲惨であると痛感した。皆さんにもぜひ一度、広島・長崎へ行くことを勧めたい。（盛岡市職労・石橋）

「10月の岩手の会街宣行動」9日(水)12:30～13:00 盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。

「2024平和のつどい」GAMA 月桃の花」前沢上映会終了 ご協力ありがとうございました

いま、世界で起きている戦争は明日の日本かもしれない。こうした情勢を危惧する人は少なくない。かつて沖縄の人々は唯一地上戦を経験した。その悲惨な沖縄戦の実相を学び、過酷な戦争を生き抜いた人々が語る歴史から、真の世界平和の尊さを考える機会にしたい。（実施要項より）

胆江地区の平和のつどいは1995年、胆江民教連の平和のつどいとして始まり、4年目から実行委員会をつくって、水沢会場で開催してきました。

その第1回で、三好京三氏（佐々木久雄先生；前沢9条の会呼びかけ人）の作品モデルとなった「沖縄のおばあちゃんの戦争体験記」を古城小学校の菊地文栄先生が報告し、語り部を阿部敬子さんが務めました。そのことを、阿部敬子さんも、会場スタッフとして来ていた娘の真奈美さんもほぼ忘れていましたが、26年ぶりの思わぬ再会となりました。

出会いがもうひとつありました。「GAMA 月桃の花」制作時に協力した予科練生き残りの方（97歳）がわざわざ横浜から来てくれました。開会前の短時間の懇談でしたが、作品にかける関係者の熱意が伝わってきました。



2024平和のつどいには、360人を超える皆様のご来場をいただき、カンパなどを含めて500人の皆様のご協力をいただきました。実行委員長の挨拶が長い。せめて原稿を用意してほしいというお叱りの声もありましたが、開会直前のふたつの出会いを踏まえて挨拶の内容を急遽差し替えた結果ですので、今回だけはお許しいただきたいと思います。

「不条理な戦争の悲惨さ、怖さ～胸苦しくなりました。目をそらしたい場面もありましたが、現実には目をそむけたくてもそむけられない。戦争

がなくなるよう、今できることを、非戦への思いを強く持ちつつ歩んでいきたい。」とアンケートにありましたが、回収率の高さ（76%）にも、来場した皆様の思いが表れているものと思われます。

「平和のつどい」は水沢地域外で初めての開催で不安もありましたが、皆様のおかげで盛会裏に終わることができました。これからも開催場所や内容を工夫し開催していきたいと考えておりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。（前沢憲法九条をまもる会・岩淵俊樹）



コラム — ウクライナの次は「台湾有事」と米日が「喧伝」するなか… —

ユーラシア大陸の西と東でアメリカが主導し、「戦争」を煽るなか、中国とアフリカ各国が参加する「中国アフリカ協力フォーラム」首脳会議が9月5日から開幕した。

米日が「戦争喧伝」するなか、日本のマスコミ報道から概略を見てみましょう。

【北京共同、'24・9・6 岩手日報】中国とアフリカ各国が参加する中国アフリカ協力フォーラム首脳会合開幕式が5日、北京で開かれた。習近平国家主席が演説し、医療・保健や農業、軍事など10項目の支援に向け今後3年間で総額3600億元（約7兆2800億円）規模の資金を拠出すると表明した。

首脳会合は2018年以来、6年ぶり。習氏はアフリカとの「運命共同体」の構築もアピールし、各国との2国間関係を戦略関係のレベルに格上げすることも提案。米欧主導の国際秩序に対抗するため、新興・途上国「グローバルサウス」の結束を呼び掛けた。…習氏は「かつて西側諸国の近代化の過程で、多くの途上国に深刻な苦難がもたらされた」と批判。中国とアフリカが協力すれば「グローバルサウスのうねり必ず巻き起こる」と語った。…米国は22年12月、アフリカとの首脳会議を開催し中国をけん制。日本も来年8月、横浜市で首脳級のアフリカ開発会議（TICAD）を開く予定。

フォーラムは00年に発足し、アフリカの53カ国とアフリカ連合（AU）が参加。主脳会合は5日、関係強化をうたう「北京宣言（「ガザでの停戦呼びかけ」（'24・9・7 しんぶん赤旗）を含む」と「行動計画」を採択した。

複雑な国際情勢を大局観で見ること必要ではないかと、コラム子は思いました。如何でしょうか。（T）